

伊賀市文化会館

今年で開館30周年を迎える伊賀市文化会館。オープン以来、コンサートや展示会などを開催し、地域住民が芸術文化に親しむ機会を創出してきました。

新たな試みを積極的に 地域のつながりを創出

市民の芸術文化・教育の増進を図るために1991年にオープンした伊賀市文化会館(旧上野市文化会館)。伊賀・名張エリアでは最大規模である約1200人を収容可能な「さまざまホール」では、クラシックやポップスのコンサートのほか、ミュージカル、落語などが開催され、その名のとおり多種多様に利用されています。



会場全体がアート空間へ様変わりした「伊賀市文化会館まるごと美術館」。さまざまホールには、巨大な作品が飾られた

2019年には、会議室や搬入庫

など会館内のあらゆる場所がアート空間となった「伊賀市文化会館まるごと美術館」を開催。伊賀地域を中心とした県在住等アーティスト42人が作品を展示したほか、「さまざまホール」ではホール初となる長さ10mの巨大キャンバスを用いたライブペインティングなどが観客を魅了しました。「音楽や演劇の会場として使われることがほとんどのホール内に、作品を展示したのは初の試み。さまざまな芸術文化が会館で楽しめるということを市民の皆さんに伝えたいことが開催のきっかけです。イベントを機に、地域を拠点とするアーティスト同士のつながりができました」と、公益財団法人伊賀市文化都市協会の常務理事兼事務局長の吉川和義さんはこやかに当時を振り返ります。

10年、20年後のアート人口増加を目指し、伊賀市文化会館ではさまざまなプロジェクトを実施しています。クラシック音楽の愛好者を地域に増やしたいと2015年度に始まったのが、「クラシックのいろは」。「パロック音楽」「古典派」など年ごとにテーマを設け、コンサートをはじめ、

講師を招いたレクチャーなどを開催しています。妊娠中の女性を対象とした「おなかのなかからクラシック」は2019年からスタート。当日はコンサートと、朗読、読み聞かせが同時に楽しめます。「10年後に地域のクラシック人口1%」を目標に、子どもの発育に合わせた多様なプログラムを展開し、「2歳になるまでのクラシック」「わんぱくキッズのクラシック探検隊」なども人気です。

2016年には、小学生を対象としたアート講座「ぶんとキッズアカデミー」目指せアーティスト」をスタートしました。講師を務めるのは、地元在住のアーティストたち。これまで4回実施され、子どもたちは、油絵やガラス工芸、テキスタイルなどさまざまな作品づくりを楽しんでいます。キッズアカデミーは、申込開始と同時に定員に達するほどの人気講座。「子どもたちはとても積極的。大人では思いつかないような色使いをするなど普段とは異なる一面を見せ、のびのびと輝いています」と吉川さんはほほ笑みます。

芸術文化を通じて 人々に活力を

2021年度に開館30周年を迎える伊賀市文化会館では春以降、注目イベントが盛りだくさん。4月23日(金)〜25日(日)には、会場が花と音楽で包まれる「花音hananeのうたげ」花が語り音が伝える〜」が開催を控えています。期間中は、伊賀華道協会による創作生け花約80点とピアノの生演奏がコラボ。その他にも、名張市観光大使を務めるミュー



- 1.「わんぱくキッズのクラシック探検隊」ではプロの音楽家から、楽器の使い方を学ぶ機会も
- 2.「ぶんとキッズアカデミー」目指せアーティスト」。さまざまな体験に子どもたちの目が輝く

ジシヤンの竹田京右さんや、Toshi Maruhashiさんによる即興演奏と創作いけばなの競演や花々の髪飾りをまとったモデルによるファッションショーなどが開かれます。その他にも、キッズアカデミー拡大版や、伊賀市初となるオペラなど年間を通して、さまざまな企画を立案。「芸術・文化は心を落ち着かせたり、日々の活力となったりするもの。人と文化をつなぐ役割を今後果たしていきたい」と吉川さんは先を見据えます。



伊賀市文化会館
伊賀市西明寺3240-2
TEL 0595-24-7015



今年で30周年を迎える伊賀市文化会館。これまで数々のイベントや講演会などを実施してきた